

## 令和3年度 実施事業の概要

施設名: 国立妙高青少年自然の家
教育事業名:「チャレンジキャンプ2021」 ～妙高で見つける 新しい自分～
期間:事前キャンプ:令和3年7月10日(土)～7月11日(日) 本キャンプ :令和3年8月 3日(火)～8月 9日(月)
対象及び参加人数:小学校5年生～中学校3年生 12人
目的: ○「豊かな心の育成」のためのプログラム開発(自己肯定感を育む)と成果の普及 ○統合型キャンプの成果の普及 ○参加者の変容を調査し、その結果を質的・量的に分析したデータの提供 以上について、報告書にまとめ、新潟県内の小・中学校、教育委員会等に配付する。
事業概要: 本事業は、子供たちの自己肯定感を育むために実施した6泊7日の長期キャンプである。また、統合型キャンプとして、性別や障害の有無等に関係なく、様々な個性や特性をもつ子供たちが、自然への挑戦や他者との協働を通して、成長し合えることをねらいとしているキャンプでもある。活動場所は、妙高青少年自然の家、船見公園、笹ヶ峰キャンプ場、火打山・妙高山である。様々なチャレンジを仲間と協力しながら乗り越えていくことを通して自己肯定感を育成する。
成果 ○ステージ制、スモールステップ型の体験活動など、キャンプを構造化したことやカウンセラーの受容的共感的なかわり方によって、参加者が安心安全に活動プログラムに取り組むことができた。 ○困難なチャレンジに対し、自分を見つめ、仲間と励まし合いながら、あきらめずに乗り越えていくことで、達成感を味わうとともに、仲間とのつながりを強くした。その結果、自己肯定感を高めた。 ○活動プログラムの内容、レンタル、企業協力など、妙高の地の利を十分に生かした事業を展開できた。 ○グループで自分の役割を果たそうと努力したり、助けが必要な場面で仲間を支えながら活動したりしていた。 ○感染症対策として、少人数のテント泊、一人一人の体温チェックとカウンセラーの面談による健康観察などを実施し全員が無事に全日程に参加することができた。
課題: ・安全対策の強化(火の扱い、悪天候、雷対応とエスケープルートの確保等)。 ・効率的かつ安全にキャンプを実施するための体制作り。サポート体制の整理。 ・子供の主体性を引き出す工夫(野外炊事など同じ活動を繰り返す活動[スパイラル]の設定)。 ・カウンセリングアプローチの視点を意識した振り返りの充実。